

中学校
英語科

事例Ⅱ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

 第3学年 相手の立場に立って、具体的な提案をしながら「話すこと[やり取り]」
手助けを申し出たり応じたりする イ

単元を通して身に付けさせたい資質・能力

場面や状況に応じた表現を用いて、申し出たり応じたりする

1 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のアプローチ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「生徒の学びの姿」と、その学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。

本単元においては、次のような視点から授業改善を図ります。

	生徒の学びの姿	本単元における教師の働きかけ
「主体的な学び」	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、学習への興味や関心をもつ。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を生徒の日常生活と関連付けて設定する。
「対話的な学び」	言語活動の中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合い、自分の考えを広げ深める。	・対話を通して、場面や状況に応じた内容や表現について考え表現する場面を提供する。
「深い学び」	「見方・考え方」を働かせながら、情報や自分の考えなどを表現する。知識や技能を活用して、情報や自分の考えなどを表現する。	・どのような内容を、どのような表現で、どのように伝えたらよいのか、思考したり判断したりする場面を提供する。 ・学んだことをほかの場面や状況で活用する場面を提供する。

2 本単元の概要

(1) 単元の目標

イベントや町中などで困っている様子の相手に対して、相手の立場に立った手助けをするために、場面や状況に応じた表現を用いて、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり応じたりすることができる。

(2) 単元の評価規準（「話すこと [やり取り]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「申し出る」という言語の働きを理解している。 ・申し出る表現を用いて、考えや意図を伝える技能を身に付けている。	困っている様子の相手に対して、相手の立場に立った手助けをするために、場面や状況に応じた表現を用いて、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり相手からの質問に答えたりしている。	困っている様子の相手に対して、相手の立場に立った手助けをするために、場面や状況に応じた表現を用いて、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり相手からの質問に答えたりしようとしている。

(3) 指導と評価の計画（全2時間）

時間	ねらい（■）、主な言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■単元の目標を理解する。 ①駅前で困っている様子の外国人観光客の動画を見て、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握する。 ②自己目標を設定する。 ■場面や状況に応じた手助けを申し出る表現について考える。また、場面や状況の中で、具体的な提案をしながら手				・後日行うパフォーマンステストに向け、「帯活動」で、生徒の日常生活に関わる場面における「話すこと[やり取り]」の言語活動（Small Talk）を設

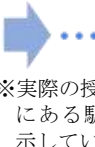
	助けを申し出たり応じたりする。 ③コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を基に、困っている様子の外国人観光客に対する、手助けを申し出る表現について、教師とやり取りをする。適宜、これまでに学んだ申し出る表現や使用場面を振り返る。※¹ ④手助けを申し出る表現を個人で考える。また、1人1台端末を活用し、考えた表現を付箋に書き込む（資料1）。  資料1 付箋に書き込む様子 ⑤個人で考えた手助けを申し出る表現をグループ内で共有し、分類や比較を通して、それぞれの表現の違いを検討する。 ⑥グループで考えた手助けを申し出る表現を全体で共有する。 ⑦相手や状況に応じた適切な表現があることを理解する。 ⑧①の対話文を聞き、意味のある文脈の中で、手助けを申し出る表現を確認する。 ⑨①の対話文における場面や状況を基に、ペアで、対話の内容や表現を考え、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり相手からの質問に答えたりするやり取りをする。また、全体で共有したあと、内容や表現を改善し、再度やり取りをする。 ⑩ペアでやり取りした対話を書く。				定し、場面や状況に応じた表現を用いて、申し出たり応じたりするやり取りを行う。
2	■これまでに学んだ申し出る表現をほかの場面や状況で活用し、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり応じたりする。 ①第1時とは異なる場面や状況をペアで選択する。 ②ペアで、対話の内容や表現を考え、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり相手からの質問に答えたりするやり取りをする。 ③グループや全体で、ペアでのやり取りを共有し、アドバイスをし合う。 ④アドバイスの内容を踏まえ、ペアで、内容や表現を改善し、再度やり取りをする。 ⑤ペアでやり取りした対話を書く。 ⑥学習した内容のまとめを行う。また、自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。	〔記録に残す評価〕は行わない。ただし、ねらいに即して〔指導に生かす評価〕を行う。 ※²			
後日	パフォーマンステスト	○	○	○	

※¹ 本単元は、小学校第5学年及び中学校第2学年で取り扱った申し出る表現の単元と系統的に関連付いています。

※² 第1時及び第2時においては、〔記録に残す評価〕は行いませんが、毎時間のねらいに即して生徒の活動の状況を把握し、〔指導に生かす評価〕を行います。〔記録に残す評価〕は、後日のパフォーマンステストにおいて行います。

3 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の働きかけの具体例

- (1) 生徒の「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、学習への興味や関心をもつ」姿を実現する教師の働きかけ

生徒の学びの姿 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、学習への興味や関心をもつ。	「主体的な学び」	教師の働きかけ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を生徒の日常生活と関連付けて設定する。
学習への興味や関心をもつことができるようにするために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を生徒の日常生活と関連付けて設定することが大切です。本単元では、教科書の題材を基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を生徒の日常生活と関連付け、リアリティのある場面設定にしています。その具体を以下に示します。		
《生徒の日常生活と関連付けたコミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定》 第1時 駅前で困っている様子の外国人観光客の動画を見て、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握する。		
 生徒A	 教師	Saga international balloon festival is coming soon. Have you ever been to the balloon festival?
 生徒A	 教師	Yes, I have. I go to the balloon festival every year with my family. That's nice. As you know, the festival is popular worldwide. Many tourists from abroad come to Saga. We sometimes come across them in the city. Now we are going to watch a short video. A tourist shows up in it. Please pay attention to what he is like.
・動画を見る。    ※実際の授業では、学校の近くにある駅やホテルの写真を示しています。		
・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握する。		
 生徒B	 教師	Let's review the video. Please look at this tourist. Where is he?
 生徒B	 教師	ABC station in our town!
 生徒C	 教師	Yes, he is in front of ABC station. It seems like he wants to go to this hotel. Do you know this hotel?
 生徒C	 教師	Yes, I do. That's ABC hotel near our school. It's a famous hotel in our town.
 生徒C	 教師	I see... What about the situation? He is in front of the station, and wants to go to this hotel. But what does he look like? Is he OK?
 生徒C	 教師	No... 何か分からないことがあって、困っているんじゃないかな。
 生徒C	 教師	That's right. He looks like he's in trouble and needs help. Have you ever encountered a situation like this? If you were this student, what would you say to him?
 生徒C	 教師	"Excuse me." "Help?"
Good. But is that enough? Isn't he still in trouble? Are the expressions OK? In this Unit, let's think about "what kind of help we can offer" and "what kind of expressions we should use" in such situations.		

POINT

学習への興味や関心をもつことができるようにするために、教科書の題材やコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を生徒の日常生活と関連付けるなどして、リアリティのある場面を設定するとよいでしょう。

- (2) 生徒の「言語活動の中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合い、自分の考えを広げ深める」姿、『見方・考え方』を働かせながら、情報や自分の考えなどを表現する」姿を実現する教師の働きかけ



自分の考えを広げ深めるために、対話を通して、場面や状況に応じた内容や表現について考え表現する場面を提供することが大切です。また、「見方・考え方」を働かせながら、自分の考えなどを表現するために、どのような内容を、どのような表現で、どのように伝えたらよいのか、思考したり判断したりする場面を提供することが大切です。本単元では、設定された場面や状況を基に、ペアで、対話の内容や表現を考え、やり取りをする場面を提供しています。その後、全体共有を通して学んだことを踏まえ、再度、どのような手助けを、どのような表現を使って申し出たらよいのか、思考したり判断したりする場面を提供しています。その具体を以下に示します。

《対話を通して、場面や状況に応じた内容や表現について考え表現する場面》

第1時 場面や状況を基に、ペアで、対話の内容や表現を考え、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり相手からの質問に答えたりするやり取りをする。

〔場面や状況〕 駅前で、ホテルの場所が分からなくて困っている様子の外国人観光客がいます。中学生が、その外国人観光客に話し掛けます。

Please think about a different plot for the same scene in pairs, then do a role play. You should think carefully about what kind of help to offer and what expressions to use in the situation.

生徒 A と生徒 B のペアが考えた対話の流れ
中学生：手助けを申し出る。→ ホテルの場所を知っている。→ ホテルまでの地図を見せる。

・ペアで、対話の内容や表現を考え、やり取りをする。 ※生徒 A（中学生） 生徒 B（外国人観光客）

生徒 A: まず…Excuse me. Can I help you?

生徒 B: Yes, please. Could you tell me where ABC Hotel is?

生徒 A: ABC Hotel? Yes. えっと…Look at this map.

生徒 B: “Look at ~.”は命令形だけど、その表現でいいのかな…

生徒 B: Well… thank you.

《どのような内容を、どのような表現で、どのように伝えたらよいのか、思考したり判断したりする場面》

第1時 全体で共有したあと、内容や表現を改善し、再度やり取りをする。

・全体で共有する。

Let's share your role plays. (学級全体に) Can any pair do a role play in front of everyone?

※ここでは、教師の問い掛けに対して手を挙げた生徒 C（中学生）と生徒 D（外国人観光客）の対話を全体で共有しています。

生徒 C と生徒 D のペアが考えた対話の流れ
中学生：手助けを申し出る。→ ホテルの場所を知らない。→ 最寄りの交番に案内する。

生徒 C: Excuse me. Can I help you?

生徒 D: Oh, yes, please. Could you tell me where ABC Hotel is?

生徒 C: ABC Hotel? Sorry, I don't know. Shall I guide you to the nearest police box?

生徒 D: Thank you. That's very kind of you.

※全体で共有した生徒C（中学生）と生徒D（外国人観光客）の対話を基に、主に、外国人観光客に対する「最寄りの交番に案内しましょうか」という申し出る表現について意見交換をしています。

What do you think about their role play, class? Any comments or questions?

生徒B

Cさんが“Can I help you?”という表現で話し掛けたのは適切だと思います。なぜなら、話し掛けた相手は初対面の外国人観光客だからです。

生徒A

Good. Then, what do you think about the expression, “Shall I guide you to the nearest police box?”

“Go to the nearest police box.”のほうが分かりやすいと思います。

生徒C

“Let’s go to the nearest police box.”のように、“Let’s～.”を使ったほうがいいんじゃないかな。

I see. Student C, why did you use the expression, “Shall I guide you to the nearest police box?”

相手は友達ではなく外国人観光客で、困っている状況なので、命令形ではなく、丁寧な表現の“Shall I～?”を使ったほうが良いと思いました。

生徒C

That’s good. 場面や状況を踏まえ、“Shall I～?”を使ったほうが良いと判断したのですね。

はい、そうです。

なるほど。この場面や状況の場合、“Shall I～?”を使ったほうが適切なんだね。

Please check the expressions and content with your pairs, and do a role play again.

・ペアで内容や表現を改善する。

ホテルまでの地図を見せるとき、“Look at this map.”って言ったけど、相手は初対面で目上の方だから、“Shall I～?”を使ったほうがいいんじゃないかな？

そうだね。丁寧な表現を使ったほうがいいかもしれないね。それと、ホテルまでの地図を見せるだけでいいのかな。ほかにもできることはないかな。

実際の場面を想像すると、相手は外国人観光客で困っている様子だから、地図を理解することが難しい可能性があるし、ほかにも困っていることがあるかもしれないね。だから、何かほかにも困っていることがないか、聞いてみるやり取りを入れよう。

うん。表現集にある Is there～?の表現が使えるだね。もう1度、やり取りをやってみよう。

・ペアで再度やり取りをする。

Excuse me. Can I help you?

Yes, please. Could you tell me where ABC Hotel is?

ABC Hotel? Yes. Shall I show you a map?

Oh, thank you very much.

Here it is. Is there anything I can do for you?

Could you show me how to get to the hotel with the map?

Of course.

※赤字で下線部の部分は改善された表現を、赤字で点線の下線部の部分は改善された内容を示しています。

POINT

自分の考えを広げ深めるために、場面や状況に応じた内容や表現について、生徒自身で考え表現する場面を提供することが大切です。また、「見方・考え方」を働かせながら、情報や自分の考えなどを表現するために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、どのような内容を、どのような表現で、どのように伝えたらよいのか、思考したり判断したりする場面を提供するようにしましょう。

(3) 生徒の「知識や技能を活用して、情報や自分の考えなどを表現する」姿を実現する教師の働きかけ

生徒の学びの姿

知識や技能を活用して、情報や自分の考えなどを表現する。

「深い学び」

教師の働きかけ

学んだことをほかの場面や状況で活用する場面を提供する。

習得した知識や技能を活用して、情報や自分の考えなどを表現できるようにするために、学んだことをほかの場面や状況で活用する場面を提供することが大切です。本単元では、これまでとは異なるほかの場面や状況（資料2）を複数提供し、選択した場面や状況を基に、ペアでやり取りをする場面を提供しています。その際、これまでに習得した手助けを申し出る表現を活用するよう促します。

《学んだことをほかの場面や状況で活用する場面》

第2時 第1時とは異なる場面や状況をペアで選択し、対話の内容や表現を考え、具体的な提案をしながら手助けを申し出たり相手からの質問に答えたりするやり取りをする。

前回、場面や状況に応じた適切な表現について学習しましたね。今日は、学んだことを生かして、これまでとは異なるほかの場面や状況を基に、ペアでやり取りをしましょう。 Now, choose a situation, and do a role play with your pair.

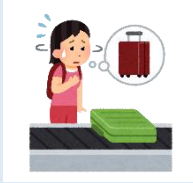


[場面や状況] ○○で困っている様子の人がいます。あなたは、その人に話し掛けます。

設定ア



設定イ



設定ウ



資料2 第2時で提供する場面や状況

・選択した場面や状況（設定ウ）を踏まえ、対話の内容や表現を考え、ペアでやり取りをする。



生徒A

Excuse me. Need any help?



Your mom? Are you lost?



I see. Do you want me to find your mom together?



Don't worry. We'll find her soon. Let's go to the information desk.

Yes, please. Where's my mom?



生徒B

Yes, I'm lost. I am looking for her...



Yes, please. I can't find her... I'm scared.



Thank you.



※赤字で下線部は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、習得した知識や技能を活用して表現している部分を示します。

Now, please check your role play. Did you use expressions that fit the situation and context? Did you offer help with specific suggestions? Please check these points with your groups, and give advice with each other.



（このあと、グループでペアでのやり取りを共有し、アドバイスをし合う。）

POINT

習得した知識や技能を活用して自分の考えなどを表現できるようにするために、学んだことをほかの場面や状況で活用する場面を提供することが大切です。ほかの場面や状況での活用を繰り返すことで、知識や技能を確実に身に付け、自信をもって表現できるようにしましょう。